

はじめての海外文学 vol.6

桜の木の見える場所

小学館 1,500円+税
パオラ・ペレッティ著／関口英子訳

もうすぐ10歳になるマファルダは目の難病にかかっている。少しずつ見えなくなり、いつか失明してしまう。できなくなることが増えていくのが怖かったが、仲よくなった用務員さんの勧めで「とても大切なことのリスト」を作り、力強く前に進んでいく。同じ病気にかかっている作者自身の経験をもとに書かれた物語。

赤塚きょう子 (あかつか きょうこ)
児童文学翻訳家

ウサギとぼくのこまった毎日

徳間書店 1,400円+税
ジュディス・カー著／こだまともこ訳

トミーは、学校のウサギ、ユッキーが大きい。ところが、そのユッキーを妹のアンジーが連れて帰って家であずかることになり、それからからは悪いことばかり。ユッキーにもアンジーにも、もううんざりです！ユッキーはのろわれたウサギなの？トミーはどうなる？最後はジーンとする、動物ずきの人にオススメのお話です。

宇野和美 (うの かずみ)
翻訳者

ジュディ・モードはごきげんななめ

小峰書店 1,300円+税
メーガン・マクドナルド作、ピーター・レイノルズ絵／宮坂宏美訳

ジュディ・モードって、気分がいろんなモードにきりかわるんだ。なまいきな弟へのいたずらが成功すれば、ごきげんモード。弟に自慢されたときには、ふきげんモード。でも、ジュディは楽しいことをみつける天才だから、毎日が基本きらきらであふれてる。つまり、とっても小学3年生ってことなんだ。

おおつかのりこ
翻訳者

図書館にいたユニコーン

徳間書店 1,300円+税
マイケル・モーパーゴ著／おびかゆうこ訳

物語や本の力がもたらす奇跡を感動的に描いた作品。本嫌いの少年トマスは、いやいや入った図書館で、不思議なユニコーンとお話の世界に出会う。司書の女性への憧れ、戦争、家族の絆-----イギリスを代表する児童文学作家、モーパーゴの静かで気高い文体に寄り添うブライズのあたたかい挿絵。ぜひお楽しみください！

おびかゆうこ
児童文学翻訳家

ハロー、ここにいるよ

評論社 1,600円+税
エリン・エントラーダ・ケリー著／武富博子訳

おとなしい少年、耳の間こえない少女、自称霊能者の少女、いじめっこの少年。11~12歳の4人の視点から物語が展開します。ある日、近所の森で4人がかかわりあい、おそろしいことがおこって……。運命や偶然、昔話やユーモアや希望がまじりあった、少し不思議な友情の話。静かに、じっくり読む人におすすめします。

武富博子 (たけとみ ひろこ)
児童文学翻訳者

木はえらい イギリス子ども詩集

岩波少年文庫 640円+税
アールバーグ他著／谷川俊太郎・川崎洋編訳

子どもの日常をユーモラスに描いた英語の詩を、詩人の谷川俊太郎さんと川崎洋さんが72編集めて訳しました。『なんで学校に行かなきゃならないの』『るっせえなあ』『弟は頭痛の種』など、6人の現代英国詩人による詩は、大人が書いたのに子どものつぶやきそのもの。『木はえらい』は心にしみませす。あとはほほ、笑えます！

田中亜希子 (たなか あきこ)
翻訳者

やかまし村の子どもたち

岩波少年文庫 680円+税
アストリッド・リンドグレン著／大塚勇三訳

リンドグレンと言えば、「長くつ下のピッピ」が有名ですが、こちらのシリーズのなんでもないほのぼのとした毎日は何度読んでも飽きません。すんなり物語に入っていけるので、はじめての読書体験にふさわしいと思います。

田辺千幸 (たなべ ちゆき)
翻訳家

ゴースト

小峰書店 1,500円+税
ジェイソン・レノルズ著／ないとうふみこ訳

「あいにく、自分から逃げられるほど足が速いやつなんて、だれもいねえんだよ」陸上クラブの監督や、母ちゃん、そして友人たち。温かい人たちに支えられて、ゴーストは、逃げるためではなく前へ進むために走りだす。

ないとうふみこ
翻訳者

ぼくだけのぶちまけ日記

岩波書店 1,700円+税
スーザン・ニールセン著／長友恵子訳

いじめられていた兄が銃で事件を起こし、家族崩壊の危機に。残された13歳の弟、ヘンリーと両親の葛藤と再生がユーモアをまじえて描かれています。引越した町でひっそりと暮らそうとしているヘンリーをお節介な隣人とプロレス好きの新しい友人が放っといてくれない様に読者もうれしくなるはず。

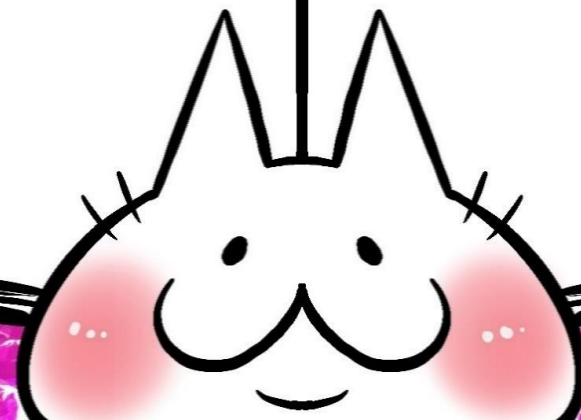
長友恵子 (ながとも けいこ)
紙芝居文化の会運営委員、
JBBY、やまねこ翻訳クラブ会員

ミス・マーブルの名推理 予告殺人

早川書房 1,400円+税
アガサ・クリスティー著／羽田詩津子訳

ミス・マーブルというすてきな老婦人が解決するクリスティーの作品。ルビがついて挿絵も入っているジュニア向けシリーズなので、小学生でも3年生くらいから読めます。クリスティーの入門としてぜひ。気に入ったら、他の作品も読んでみてください。

羽田詩津子 (はた しづこ)
翻訳家



はじめての海外文学 vol.6

名探偵カッレ 地主館の罠

岩波書店 2,100円+税
アストリッド・リンドグレン著／菱木晃子訳

『長くつ下のピッピ』で知られるリンドグレンが手掛けた児童向け探偵小説「名探偵カッレ」シリーズの第二弾。穏やかな町に起きた殺人事件。遊びも謎解きも、カッレたちの活躍が、きらきらとまぶしい。

菱木晃子 (ひしき あきらこ)
翻訳家

【グラフィック版】アンネの日記

あすなる書房 2,000円+税
アンネ・フランク著／深町眞理子訳

アンネの隠れ家での食事は？ お風呂やトイレは？ そんなこまかいことも、この本なら絵を通してよくわかります。日常生活がいきいきと伝わってくるだけに、突然の幕切れがいっそう胸にせまります。原作に忠実でありながら、画家の想像力の豊かさも感じられる、アンネ・フランク財団もおすすめの一冊です。

宮坂宏美 (みやさか ひろみ)
翻訳家

西遊記〈上〉

岩波少年文庫 760円+税
呉承恩著／伊藤貴磨訳

いまだにコミックスや映画など様々な形に翻案されている不朽の名作です。主人公たちのわくわくするような冒険や妖怪変化との戦いを楽しんでいくうちに、仏教と道教という中国文化の精髓を深く理解することができます。できれば上中下三巻をまとめて楽しんでもらいたいと思います。

増田まもる (ますだ まもる)
英米文学翻訳家

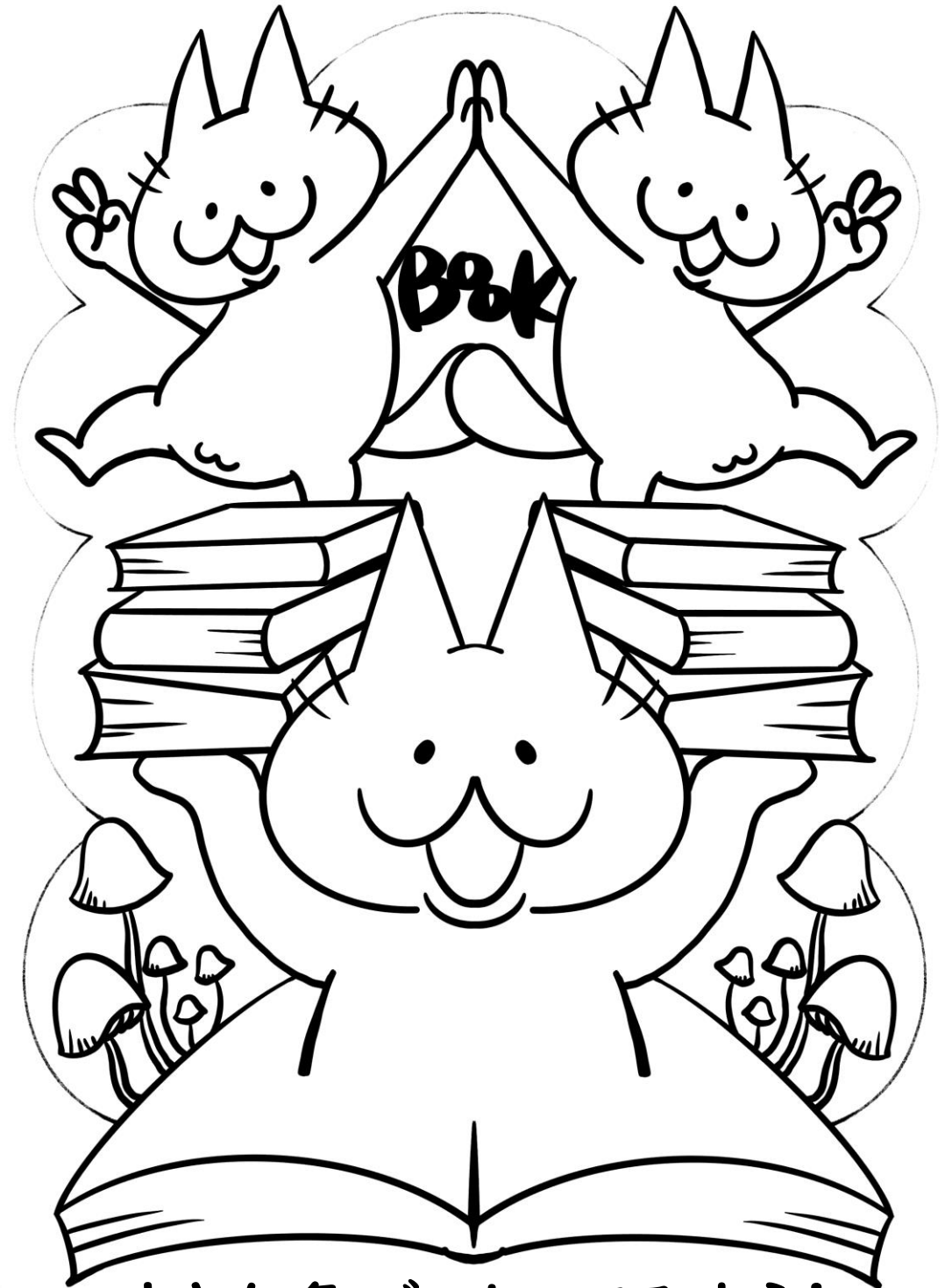
キャラメル色のわたし

鈴木出版 1,600円+税
シャロン・M・ドレイパー著／横山和江訳

ピアノの練習に打ち込んでいる11歳の主人公の日常が描かれていますが、背景は複雑です。両親が離婚したため黒人の父親と白人の母親の家を1週間ごとに行き来しているせいです。さらに学校で黒人差別事件が起き、否が応でも黒人としての現実をつきつけられます。少女の目を通したアメリカの実情が垣間見える作品。

横山和江 (よこやま かずえ)
子どもの本の翻訳者

でんすけぬりえ



すきな色でぬってみよう!

児童書部PP9②

はじめての海外文学関連サイト

Twitter



@kaigaibungaku

公式サイト



<https://hajimetenokaigaibungaku.jimdofree.com>

はじめての海外文学フェアと関連イベントの情報はもちろん、日本で一番(?)充実した海外文学・翻訳書イベント情報を日々更新するサイト。のぞいてみてね。

